

担い手育成特定資産事業 活用事例紹介 池田 美輝さん（金ヶ崎町）

取材担当 奥州農業改良普及センター 岩間 成美

令和6年に就農した池田美輝さんをご紹介します。

池田さんは、兼業農家であった父の離農をきっかけに、子育てと両立しながら収益を確保できる農業に魅力を感じ、実家の農地を活用した就農を決意しました。経営の安定化に向け、所有する約2haの水田に加え、野菜栽培にも取り組む必要があると考えました。そこで、地元農家で2年間栽培技術を習得したピーマンと、春先の所得確保につながるアスパラガスを導入し、水稻、ピーマン、アスパラガス、冬作ほうれん草の4品目による営農を開始しました。

就農後は、ピーマンの管理・収穫作業に必要な時間の確保が課題となり、スタートアップ支援事業を活用し、畦草刈機、スパイダーモア及び管理機を導入することで、作業負担の軽減を図りました。機械導入により除草や管理作業を省力化し、作業時間を確保できたことで、ハウス（中古）の導入や増設が進みました。今年は、露地栽培に加え、約12aのハウスでピーマンを栽培しています。また、水田の集積も進み、今年の作付面積は前年から約1ha増加し、計画を上回る販売額が見込まれています。

地域農業を担う経営体として、池田さんのさらなる活躍が期待されます。



事業を活用し、農業経営を発展している池田さん



作業省力化を支える導入機械